

令和4年度 第一回 学校関係者評価委員会 (令和4年11月14日)

[評価委員]

広島市立戸坂中学校 校長 手賀 様

広島市立戸坂城山小学校 校長 河野 様

広島城北中・高等学校 PTA 会長 高見 様

広島城北高等学校同窓会 会長 佐伯 様

[学校からの出席者]

松井校長 中川教頭(司会) 大下教頭(記録)

麻野総務部長(記録) 徳丸教務部長 宮本生徒部長 下木進路指導部長 ブランチ国際部長

亀田入試広報部長

▼「授業改善シート」とはどのようなものか？

△前年度の授業評価の結果をもとに、今年度の授業改善ポイントを挙げ、授業改善につなげていくように、各教員が作成し、管理職に提出している。

▼家庭学習をどのようにさせているのか？中高6年間の中で、どのように主体的な学習へと移行させているのか。

△各教科でバランスを取りながら、宿題は毎日出している。テストの前はよく勉強しており家庭学習時間も伸びるが、日常の学習時間が少ない傾向については課題ととらえている。小テストや課題を定期的に出している教科もあるが、“させられる”家庭学習から“主体的な”家庭学習になるよう働きかけを続けたい。

大学入試が変わってきており知識だけでは対応できなくなっている。思考力をしっかり伸ばしていくことも課題であり、宿題の内容も工夫していく必要がある。

▼城北プライドのアンケートの最後に「校訓を書いてみよう」というのがあるが、どのくらいの生徒が書けるのか？

△正しい漢字で記述した実数は把握していない。式典での校長訓話や学年集会等で校訓にも触れる場面はあるので、口頭で言える生徒は多いと思われる。

▼城北プライドの評価の肯定率が昨年度から下がった理由は？

△肯定的な回答をした生徒の割合が減っていることに対しての検証はしていない。昨年度は未回答の生徒がかなりいたが今回はほぼすべての生徒が回答している。アンケートに回答した生徒の母数が昨年と異なっており、それが影響していると思われる。

▼高校からの入学者が増えているが、どのような取り組みをしたのか、またそれをこれまではしていなかったのか？

△各中学校の部活の顧問の先生(勉強も部活も頑張りたいという生徒に対して)に声掛けをしている。

▼城北に対して、難しいというイメージを持っている公立中学生はまだ多くいる。今後もそういった中学生に声掛けをして認知度を高めていってほしい。

△教員が各中学校を訪問して教育内容について説明しており、認知度も少しずつではあるが上がっている。

- ▼戸坂城山小学校の体育館でバドミントン部が練習しているほか、町内会の清掃にも参加して地域貢献をしっかりとしてもらっている。そういった少しずつの積み重ねを今後も続けてもらいたい。城北生は素直な生徒ばかり。しんどい仕事も自ら進んでしてくれる。
- ▼昨年度から行ってもらっているSDGsの出前授業は、児童にも有益な時間となっている。
- ▼朝の登校指導の際に、城北のネイティブの先生と英語であいさつをすることも児童の楽しみとなっている。
- ▼文化祭などでも、生徒の主体性を大事にされている様子が見える。社会に出たときにそれがいろいろな場面で役に立つと思う。
- ▼貢献する、というのは相手のことを考えられるようになることでもある。気配りのできる生徒を育てられているということで、将来を楽しみにしている。

令和4年度 学校関係者評価シート（中間評価）

令和4年11月14日

| | | | | |
|-----|------------|-----|------|-------|
| 学校名 | 広島城北中・高等学校 | 校長名 | 松井 太 | 全日制課程 |
|-----|------------|-----|------|-------|

| 評価項目 | 評価 | 参考評価項目等 |
|--------------|----|--|
| 目標、指標、計画の妥当性 | A | <input checked="" type="checkbox"/> 課題を踏まえた適切な目標等の設定である。 <input type="checkbox"/> 目標等の設定には課題の分析が今少し弱い。 <input type="checkbox"/> 課題の分析が不十分であり妥当性に欠ける。 <input type="checkbox"/> 課題と対応の指標等が大きくかけ離れている。 |
| 計画の進捗状況に係る評価 | A | <input checked="" type="checkbox"/> 計画に基づいた取組が適切に進められている。 <input type="checkbox"/> 計画は進めているが今少し対応が遅い。 <input type="checkbox"/> 計画の種類によって進捗にばらつきがある。 <input type="checkbox"/> 計画はあるが極めて対応が遅く効果的でない。 |
| 目標達成の取組に係る評価 | B | <input type="checkbox"/> 目標達成に向けて確実に対応が進んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標達成の取組に今少し具体的対応が欲しい。 <input type="checkbox"/> 目標達成の指標は分掌でばらつきが見られる。 <input type="checkbox"/> 目標達成を設定しているが効果が見られない。 |
| 評価結果の分析に係る評価 | A | <input checked="" type="checkbox"/> 自己評価としての的確な分析結果である。 <input type="checkbox"/> 自己評価としてやや抽象的な分析が見られる。 <input type="checkbox"/> 自己評価はするものの一方的な分析である。 <input type="checkbox"/> 全く妥当性を欠いた自己評価と分析である。 |
| 今後の改善方策の妥当性 | B | <input type="checkbox"/> 改善方策が具体的であり大いに期待できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善方策が分掌によってやや温度差がある。 <input type="checkbox"/> 改善方策として抽象的な対策が多く見られる。 <input type="checkbox"/> 改善方策として抽象的で妥当性を欠いている。 |
| 総合評価 | A | <input checked="" type="checkbox"/> 教務、進路の「評価指標」で客観性が高まった。 <input type="checkbox"/> 客観性を高めるには今少し具体性が欲しい。 <input type="checkbox"/> 「評価指標」としては説得力に欠ける。 <input type="checkbox"/> 具体性、客観性を担保できる指標が欲しい。 |

(注) 評価：「A適切」「Bほぼ適切」「Cやや適切さに欠ける」「D不適切」

1 建学の精神

英才教育の徹底
道徳教育の徹底
錬身教育の徹底

日本のみならず海外をも視野に入れた大学進学をめざす中高一貫教育の推進
個性が豊かで、自分や人を大切にする姿勢を持つ良識ある青少年の育成
質実剛健にして、心身ともに豊かさを自ら育もうとする青少年の育成

2 校訓

「学んで厭かず、教えて倦まず」

3 ミッション

グローバル・マインドを持ち、21世紀のリーダーとして国際社会の平和と発展に寄与する人材を育成する。

4 ビジョン (使命の追及を通じて実現しようとする自校の将来像)

- ① 進学校として特色ある教育活動（医進・特進・国際・探究活動等）が広く認知され、安定した入学者が確保されている。特色ある進学校
- ② すべての教育活動を通じて、高い志と行動力に裏打ちされた城北生としてのプライドが育っている。プライド・リーダーシップ
- ③ 社会の多様性を理解し、平和で持続可能な社会の実現に向けて自発的に取り組む生徒が育っている。持続可能性・異文化理解
- ④ 「6年制」「3年制」それぞれが強みを発揮し、系統性と計画性を持たせた学習指導・進路指導が成果を挙げている。系統的・計画的指導
- ⑤ 「習得・活用・探究」のサイクルを意図した指導の下、「主体的・対話的で深い学び」が実現されている。探究的学び

5 今年度の教育目標

- ① 特色ある教育活動を展開するとともに、組織的・積極的に広く周知を図り、安定した入学者を確保する。特色ある進学校
- ② 本校のあらゆる教育活動を通じて、高い志と行動力に裏打ちされた「城北プライド」を育む。プライド・リーダーシップ
- ③ 世界の動向や日本の現状を多様な視点から捉え、平和で持続可能な社会の実現に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する。持続可能性・異文化理解
- ④ 「6年制」「3年制」それぞれの強みを見極め、系統性と計画性を持たせた学習指導・進路指導を構築する。系統的・計画的指導
- ⑤ 医進コース・特進クラス及び新しい探究活動等のために、時代の変化に対応した教育内容の開発と校内の指導体制を構築する。探究的学び

6 教育目標・活動策定に係る環境分析

(1) 本校を取り巻く状況と課題

| 内部環境 | 外部環境 |
|---|--|
| <p>強み (S)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事に積極的に参加する生徒が多い。 ② 学業と部活動の両立を図り、未来を切り開く生徒が多い。 ③ 生徒の持つ学力を細かく分析し指導することで、多くの生徒の学力が伸びる可能性を秘めている。 ④ 外国人教師が5名おり、英語教育をはじめ国際理解教育を推進している。 ⑤ 海外研修プログラムが充実している。 ⑥ 教育施設が充実している。 ⑦ 休校時にICTを使ったオンラインの指導を行う体制が整っている。 ⑧ 推薦入試を中心に高等学校の志願者が増加しつつある。 | <p>機会 (O)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 私立中高一貫の男子校として一定の評価がある。 ② 「面倒見の良い学校」として評価がある。 ③ ICT機器を活用した授業実践に、校外から関心を持たれている。 ④ PTA・同窓会などが協力的である。 ⑤ 連携に協力的な大学・企業がある。 ⑥ 英語運用能力への関心が高まっている。 ⑦ 大学入試の変化により探究活動を評価する機運がある。 ⑨ 医学科進学コースの取組をさらにアピールできる。 ⑩ 生徒数増加が見込まれる地域が近隣にある。 |
| <p>弱み (W)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 中高一貫教育の強みをさらに発揮する必要がある。 ② 学習習慣の定着が課題となる生徒がいる。 ③ 中学校の志願者が減少傾向にあり、歩留まり率が低い。 ④ 組織的・計画的な教科教育力の向上に向けた取り組みがさらに必要である。 ⑤ 強みの海外研修がコロナ禍で十分実施できない。 ⑥ 進学先として広く訴求する効果的な広報をさらに進める必要がある。 | <p>脅威 (T)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 少子化による受験人口の減少 ② 近隣の学校の共学化や特色ある取組により生徒の志望動向に大きな変化がみられる。 ③ 特定の公立学校の人気の高さ ④ 広島市内中学での高校入試における本校の認知度の伸び悩み ⑤ 校外での生徒のマナーについて指摘を受けることがある。 ⑥ 新型コロナウイルス感染拡大により、休校措置や行事の中止等への懸念が払しょくされていない。 ⑦ 立地条件が悪く通学に抵抗感を持たれる傾向がある。 進学先として市内中心部への指向は根強い。 |

7 目標

| 1 本校のあらゆる教育活動を通じて、高い志と行動力に裏打ちされた「城北プライド」を育む。 | | | | | | |
|--|---|-------|-----|-----|-----|-----------|
| 達成目標 | 評価指標 | 実績値 | 目標値 | | | 担当 |
| | | 3年 | 4年度 | 5年度 | 6年度 | |
| 志を持ち高い目標に挑戦する勇気を持った生徒を育てる。 | 進路実現とその他の学習において高い目標を設定し具体的に行動ができているか？ 自己評価が高い順A～Eのうち A+Bの割合 | 50.7% | 60% | 70% | 75% | 総務 学年会 |
| | 部活・習い事など校内外の自主的な活動において高い目標を設定し具体的に行動ができているか？ 自己評価が高い順A～Eのうち A+Bの割合 | 49.0% | 60% | 70% | 75% | |
| 他者や社会に貢献する勇気を持った生徒を育てる。 | 校内外において自発的に貢献する行動がとれたか？ 自己評価が高い順A～Eのうち A+Bの割合 | 65.9% | 70% | 70% | 75% | |
| 「学んで厭かず、教えて倦まず」の校訓の精神を実践する生徒を育てる | ・数値目標は設定せず。 | | | | | |

| 2 世界の動向や日本の現状を多様な視点から捉え、持続可能な社会の実現に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する。 | | | | | | | | |
|--|------------------|-----------------|---------|------|-------|-----|-----|--------------|
| 達成目標 | 評価指標 | 実績値 | 目標値 | | | 担当 | | |
| | | 3年度 | 4年度 | 5年度 | 6年度 | | | |
| 世界の動きに興味・関心を向けるとともに、積極的に異文化に触れ、コミュニケーションが図れる生徒を育む。 | 生徒の興味を示す数値 | 海外短期研修の 応募者数 | オーストラリア | — | 中止 | 20人 | 30人 | 国際部 (英語科) |
| | | イギリス | — | 中止 | 20人 | 30人 | | |
| | | 韓国 | — | 中止 | 15人 | 20人 | | |
| | | インドネシア | — | 中止 | 30人 | 30人 | | |
| | Year 留学・Term 留学 | — | — | 2人 | 2人 | | | |
| | 受入プログラムのホストファミリー | — | 中止 | 50家庭 | 100家庭 | | | |

| | | | | | | | |
|-------------------------------|-----------------|--------------------------------------|-----------------|------|-------------|---------------|---------------|
| | | 中学インターナショナルフレンドシップキャンプ | — | 20人 | 40人 | 40人 | |
| | | 高1一泊二日 Intensive English Camp (集中講義) | | 10人 | 20人 | 20人 | |
| | | 外部のイベント (スピーチコンテスト等) | 28人 | — | 50人 | 50人 | |
| | | インターナショナルクラブ加入者数 (短期研修参加者含む) | 10人 | 10人 | 50人 | 50人 | |
| | | 韓国語講座参加者数 | 19人 | 25人 | 25人 | 25人 | |
| | | NEWSLETTER 編集に関わる生徒数 | 13人 | 15人 | 20人 | 20人 | |
| | | 提携校オンラインサミット (検討中) | — | 20人 | 30人 | 30人 | |
| | 英語検定の受 験を促進 | 高2 英検 2級合格数 | 14人 | 50人 | 50人 | 50人 | |
| | | 中3 英検 3級合格数 | 85人 | 120人 | 120人 | 120人 | |
| | | 中2 英検 4級合格数 | 105人 | 140人 | 140人 | 140人 | |
| 上記に加え て国際部の 活動を示す 数値 | ゲストスピー カー講演会 | 中2Discovery | — | — | 5回 | 5回 | |
| | | 中2・3全学年 | — | — | 各学年1回 | 各学年1回 | |
| | | 国際関係 LHR(中1・1回, 中2・2回, 中3・1回) | — | — | 4回 | 4回 | |
| | | NEWSLETTER(情報雑誌)発行 | 2回 | 2回 | 3回 | 3回 | |
| | | P T A新聞に掲載する国際部関連記事 | 1記事 | 1記事 | 5記事 | 5記事 | |
| | | デジタルサイネージコンテンツの更新 | 毎週 | 毎週 | 毎週 | 毎週 | |
| | | 危機管理研修会の実施 | 1回 | — | 1回 | — | |
| | | 広島インターナショナルスクールとの交流 | — | — | 1回 | 2回 | |
| | | 来訪の海外生徒 との交流行事 | 中2Discovery の授業 | — | — | 各プログラム 2時間 | 各プログラム 2時間 |
| | | | 全校歓迎集会 | — | — | 各プログラム 1回 | 各プログラム 1回 |
| | 体育祭・文化祭 | | — | — | 体育祭と 文化祭 | 文化祭 | |

| 3 中高一貫教育の強みを発揮し、中学1年生から高校3年生まで系統性を持たせた指導を展開する。 | | | | | | | | | |
|--|-----------------------|---------|------|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 達成目標 | 評価指標 | | 実績値 | 目標値 | | | 担当 | | |
| | | | 3年度 | 4年度 | 5年度 | 6年度 | | | |
| ① 基本的な生活習慣を確立する | 目標の性質上数値による評価指標は設定しない | | | | | | 生徒部 | | |
| ② 生徒が、自主的・積極的に運営参加する学校づくりを目指す。 ③ 生徒自らが、他者を思いやり、地域に愛される学校となるべく、生徒会が中心となり城北モラルを向上させる。 | 地域のボランティア活動への参加 | | 4 | 4 | 5 | 6 | 生徒部 | | |
| | 登下校時マナーアップへの呼びかけ | | 4 | 5 | 6 | 6 | | | |
| | 先進的な他校生徒会執行部との交流 | | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| | 中高合同で行う校内行事の検討 | | 3 | 3 | 3 | 3 | | | |
| ④ 系統立てた学びにより、学習意欲等が高まっている。 ⑤ 年間授業時数が確保できている。 | 生徒の授業満足度 | | 84% | 80% | 80% | 80% | 教務部 | | |
| | シラバス作成の進捗管理 | | 90% | 100% | 100% | 100% | | | |
| | 年間授業時数(1単位当たり) | | 35時間 | 35時間 | 35時間 | 35時間 | | | |
| ⑥ 基礎学力の定着・向上を図り、積極的に自己実現を図る生徒を育成する。 | 家庭学習時間(トータルとして) | | 中1 | 平日 | 3.0時間 | 2.0時間 | 2.0時間 | 2.0時間 | 教務部 |
| | | | | 休日 | 3.3時間 | 3.0時間 | 3.0時間 | 3.0時間 | |
| | | | 中2 | 平日 | 2.2時間 | 2.0時間 | 2.0時間 | 2.0時間 | |
| | | | | 休日 | 3.3時間 | 3.0時間 | 3.0時間 | 3.0時間 | |
| | | | 中3 | 平日 | 1.8時間 | 2.0時間 | 2.0時間 | 2.0時間 | |
| | | | | 休日 | 2.1時間 | 3.0時間 | 3.0時間 | 3.0時間 | |
| | | | 高1 | 平日 | 1.6時間 | 2.5時間 | 3.0時間 | 3.0時間 | |
| | | | | 休日 | 2.7時間 | 3.5時間 | 3.5時間 | 3.5時間 | |
| | | | 高2 | 平日 | 3.0時間 | 3.0時間 | 3.0時間 | 3.0時間 | |
| | | | | 休日 | 4.2時間 | 4.0時間 | 4.0時間 | 4.0時間 | |
| | | | 高3 | 平日 | 5.5時間 | 5.0時間 | 5.0時間 | 5.0時間 | |
| | | | | 休日 | 6.8時間 | 7.0時間 | 7.0時間 | 7.0時間 | |
| ② 模試目標偏差値を達成する。 | 全統模試第3回(高1・11月) | 偏差値70以上 | 1人 | 5人 | 7人 | 10人 | 進路指導部 | | |

| | | | | | | |
|---|----------------------|-----------|------|-------|-------|-------|
| | *昨年実施せず。 | 偏差値 60 以上 | 14 人 | 25 人 | 30 人 | 35 人 |
| | 進研模試 11 月 (高 2・11 月) | 偏差値 70 以上 | 7 人 | 15 人 | 20 人 | 20 人 |
| | | 偏差値 60 以上 | 44 人 | 55 人 | 60 人 | 70 人 |
| ③ 旧帝大等の難関大 10 名、広島大 20 名、早慶上理 30 名、関関同立 100 名以上が合格する。 | 大学合格者数 | 旧帝大クラス | 8 人 | 10 人 | 10 人 | 10 人 |
| | | 広大 | 12 人 | 18 人 | 20 人 | 20 人 |
| | | 早慶上理 | 20 人 | 25 人 | 30 人 | 30 人 |
| | | 関関同立 | 84 人 | 100 人 | 100 人 | 100 人 |

| 4 時代の変化に対応した、教育内容の開発と校内体制の構築を図る。 | | | | | | | |
|---|-----------------|-------------------------|--------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|----------|
| 達成目標 | 評価指標 | 実績値 | | 目標値 | | 担当 | |
| | | 3年度 | 4年度 | 5年度 | 6年度 | | |
| ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICT機器の活用を含めた特色ある授業実践に取り組む。 | 「授業改善シート」の提出 | | | | | 教務部 | |
| ② 新学習指導要領に対応した教育課程の実施について評価・改善を行う。 | | 60% | 100% | 100% | 100% | | |
| ③ 城北の魅力を、機会をとらえて積極的に情報発信する。 学校行事だけでなく日常的な教育活動について、学校の魅力を積極的に校外に発信することにより、受験者数の確保に繋がる情宣活動を推進する。 | 受験者層への興味・関心の喚起 | 6年制コース | 受験者数 644人 (入学者178) | 受験者数 650人 | 受験者数 670人 | 受験者数 690人 | 入試広報部 |
| 3年制コース | | 受験者数 158人 (入学者84) | 受験者数 190人 | 受験者数 210人 | 受験者数 230人 | | |
| ④ 医進コース・自主的探究活動のカリキュラム開発と広報活動を進める。 | | 医進コース | 受験26人 入学者8人 | 入学者20人 | 入学者20人 | 入学者20人 | 医進コース |
| | | FLIP | SDGs11人 プログラミング6人 | SDGs 20人 プログラミング10人 | SDGs 20人 プログラミング10人 | SDGs 20人 プログラミング10人 | FLIP等担当者 |
| ⑤ 新型コロナウイルス感染防止対策を推進する。 | 数値による評価指標は設定しない | | | | | 総務部 | |

取組の進捗状況の評価

A: 目標に向けて計画以上に進展している。 B: 目標に向けて計画通りに進展している。 C: 目標に向けて不十分な点もあるが概ね計画通りである。

D: 目標に向けての取組が不十分である。 E: 目標に向けて取組がほとんど手付かずである。

8 目標達成のための手立て（「戦略」）

| 1 本校のあらゆる教育活動を通じて、志と行動力に裏打ちされた「城北プライド」を育む。 | | | | |
|--|---|-------------------------|---|-----------|
| 達成目標 | 本年度行動計画 | R4 中間評価（コメント・参考になる数値など） | | 担当 |
| 志を持ち高い目標に挑戦する勇気を持った生徒を育てる。 | ・ 7月に高い目標をについて説明し、1学期終了時（中間評価時点）、年度末に評価表に基づいて達成度をABCDEで自己評価する。 | C 目標 60% | 進路実現に向けた学習の評価の肯定率 中学全体40.9% 1年39.3%, 2年44.7%, 3年38.6% 高校全体50.1% 1年36.9%, 2年46.5%, 3年67.7% 学年を追うに従って向上。高1年時の低い数値が懸念材料。中高合計昨年末50%から伸び悩み。 部活・習い事など自主的活動の肯定的回答 中学全体50.4% 1年53.2%, 2年56.1%, 3年41.4% 高校全体54% 1年47.2%, 2年59.8%, 3年55.1% 中高合計昨年末49.0%より増加。 | 総務 学年会 |
| 他者や社会に貢献する勇気を持った生徒を育てる。 | ・ 7月に校内・校外での貢献活動について説明をし、1学期終了時（中間評価時点）、年度末に評価表に基づいて達成度をABCDEで自己評価する。 | C 目標 70% | 貢献する意識の肯定的回答 中学全体55.7% 1年54.5%, 2年58.3%, 3年54.4% 高校全体63.7% 1年58.1%, 2年67.5%, 3年65.2% 中高合計昨年末65.9%から伸び悩み。 | |
| 「学んで厭わず、教えて倦まず」の校訓の精神を实践する生徒を育てる | 学期のはじめと終わりに校長講話やLHRで確認をする。折に触れて生徒へ繰り返し説く必要がある。 | | | |

| 2 世界の動向や日本の現状を多様な視点から捉え、持続可能な社会の実現に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する。 | | | | |
|--|--|--------------------------|---|------|
| 達成目標 | 本年度行動計画 | R4 中間評価 (コメント・参考になる数値など) | | 担当部等 |
| 世界の動きに興味・関心を向けるとともに、積極的に異文化に触れ、コミュニケーションがはかれる生徒を育む。 | COVID19の影響により、海外短期研修及び受け入れプログラムを中止した。代替案を導入する。 | C | 集中英語イマージョン キャンプ、オンラインプログラム、課外プログラムなど、いくつかの選択肢が生徒に紹介されています。しかし、学生の関心はあまり高くありませんでした。 | 国際部 |
| | COVID19の現状を鑑み、令和5年度の研修プログラム再開に向けて、交流先の状況や外務省のガイドラインなどの情報を集める。事前学習などの準備を進める。校務運営会議と国際部で危機管理研修を実施する。 | B | 毎日外務省のHPを閲覧するなど、国内や海外の状況に関する情報を集めている。令和5年度の事前学習スケジュールが決定しました。7月に危機管理研修を実施しました。 | 国際部 |
| | 令和5年度の研修プログラムを計画する段階で、改善点を考え実施する。 | B | プログラムの計画はすでに始まっています。これから段階で、改善点を考え実施する。 | 国際部 |
| | 管理職、部署、生徒レベルで姉妹校と強い連携を保つ。校長から各姉妹校へ直接手紙を送る。城北の国際部と姉妹校の国際部との連携を密にする。城北と姉妹校間でカリキュラムの連携を図る。 | B | 城北の国際部と姉妹校は、月に1回程度、メールまたはビデオ通話で連絡を取り合っています。来月、中2ディスカバリー生徒とオーストラリアの学校との間でカリキュラムのコラボレーションが行われる予定です。校長からの手紙は、一校の姉妹校の校長と生徒に送られています。 | 国際部 |
| | オーストラリア (ブリスベン) の学校と新しく連携する。 | B | 1つの学校との詳細な協議は10月に行われる予定です。 | 国際部 |

| | | | | |
|--|---|---|---|------------|
| | 英語科と連携して英検の受験を促進する。ニュースレターとデジタルサイネージによる周知を促進する。 | B | デジタルサイネージとディスカバリーのレッスンをを使って英検受験が推進されています。 | 国際部 英語科 |
| | 地域社会や城北に入学を考えている小学生や中学生に対して、より効果的に城北の国際活動を宣伝する。入試広報部と連携を取る。ホームページにプログラムの情報を公開する。メディアで紹介してもらう。 | D | COVID19の影響により国際活動はありませんでした。 | 国際部 |
| | 国際ニュースレターの内容や配信を改善し、電子と紙媒体で生徒に配布する。生徒に令和4年度予定の国内研修プログラムおよびそれ以降の海外プログラムに興味を持たせ続ける。 | C | 国際活動が付かない為、生徒達の感想や報告が無い ニュースレターに含めるものは何もあります。 | 国際部 |
| | 4年度海外研修・国際部のグランドデザインを作成する。関係する教員と連携をとり、草案を校長に提出する。 | B | グランドデザインは現在検討中です。 | 国際部 |

| 3 中高一貫教育の強みを発揮し、中学1年生から高校3年生まで系統性を持たせた指導を展開する。 | | | | |
|--|--|--------------------------|---|------|
| 達成目標 | 本年度行動計画 | R4 中間評価 (コメント・参考になる数値など) | | 担当部等 |
| ① 基本的な生活習慣を確立する | 個人面談やLHRなどを通じて望ましい生活習慣の確立を図る。 | B | 個人面談・LHRなどを中心に、積極的に声かけを行っている。手帳やClassiの入力も行い場合によっては保護者との連携もとっている。特に中学校1学年の生徒も中学生生活に徐々に慣れつつある。 | 学年会 |
| | 校舎内での右側通行を徹底するとともに三密にならない配慮も含め授業や登下校時のマナー意識を育てる。 | C | 相変わらず、マナーについてのご指摘はいただいているが、少しずつ改善されている | 生徒部 |

| | | | | |
|--|--|---|--|-------------------|
| | LHR・道徳・個人面談・三者懇談等で相談体制を確立する。 | B | 個人・クラス・学年の実態に応じて密接な連携を図っている。生徒が相談しやすい環境を心がける。学年会での情報共有に努めている。 | 学年会 |
| | 様々な課題を抱える生徒の支援について学年会とカウンセラーとのミーティングを学期毎に実施する。 | C | 特に課題を抱えた生徒の担任・学年主任とカウンセラーの密な連携はできている。学年会での場での情報交換など時間制限もありできていない。 | 総務部 学年会 |
| ② 生徒が、自主的・積極的に運営参加する学校づくりを目指す。 ③ 生徒自らが、他者を思いやり、地域に愛される学校となるべく、生徒会が中心となり城北モラルを向上させる。 | 帰属意識を高める行事を具体化する。 中高合同体育祭を実施する。 中学生、高校生が協力して地域に貢献できるボランティア活動を実施する。 | A | コロナ禍の中、中高合同体育祭、文化祭が開催でき、予定以上の大きな成果となった。来年度以降の更なる発展につなげていきたい。 | 生徒部 総務部 |
| ④ 系統立てた学びにより、学習意欲等が高まっている。 ⑤ 年間授業時数が確保できている。 | 中学、高校の新課程の実施に伴い、6年間を見据えた学習意欲を高める授業計画を作成・実施する。 | B | 新課程における中間試験、期末試験の試験科目の設定を行った。 | 教務部 |
| | 授業時間確保のため、定期的にチェックし曜日による偏りがないようにする。 | B | 1学期に2回、2学期2回平日に時間変更をし土曜授業を実施した。 | |
| ⑥ 基礎学力の定着・向上を図り、積極的に自己実現を図る生徒を育成する。 | 放課後の学習時間の確保、学習場所の整備等に関する具体的な方策を構築する。 | C | 北棟耐震化工事のため自習室としての図書館の利用は行えなかった。放課後や夏季休業中は教室を自習室として活用いただいた。 | 教務部 生徒部 総務部 |
| | 家庭学習時間の記録を生徒の学習に関する指導助言に活用する。 | C | 定期的に集約をし、学年会等でフィードバックしている。主にClassiを用いて入力を指導している。高校1・2年の学習時間に大きな課題がある。 参考となる各学年学習時間データ（通年） | 進路指導部 学年会 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|------|--|------|------|----|-----|----|--------|----|------|----|----|--------|------|----|----|----|--------|------|------|----|------|------|----|----|----|--|
| | | | <table border="1"> <tr> <td></td> <td>平日</td> <td>休日</td> <td></td> <td>平日</td> <td>休日</td> </tr> <tr> <td>中1</td> <td>1.5h</td> <td>3h</td> <td>高1</td> <td>1.5h</td> <td>1.5h</td> </tr> <tr> <td>中2</td> <td>2h</td> <td>4h</td> <td>高2</td> <td>1.8h</td> <td>2.6h</td> </tr> <tr> <td>中3</td> <td>1.5h</td> <td>2.5h</td> <td>高3</td> <td>4h</td> <td>6h</td> </tr> </table> | | 平日 | 休日 | | 平日 | 休日 | 中1 | 1.5h | 3h | 高1 | 1.5h | 1.5h | 中2 | 2h | 4h | 高2 | 1.8h | 2.6h | 中3 | 1.5h | 2.5h | 高3 | 4h | 6h | |
| | 平日 | 休日 | | 平日 | 休日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中1 | 1.5h | 3h | 高1 | 1.5h | 1.5h | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中2 | 2h | 4h | 高2 | 1.8h | 2.6h | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中3 | 1.5h | 2.5h | 高3 | 4h | 6h | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑦ 模試目標偏差値を達成する | <p>中学1年次から大学を意識させる進路指導を行う。早期の段階から難関大学に憧れを抱くような進路LHRを計画し、成績上位層の人数を増やす取り組みとして、学習時間の確保を図る学習計画の立案・指導、希望補習や模試の事前・事後指導を実施する。個人面談・三者懇談・LHR等を通じて生徒個々の学習意欲を高めるとともに、学力向上にむけた具体的な学習方法について指導助言する。</p> | | <p>中学校では学力と学習時間の相関から集団を4象限に分けた集会を行ったり、職業意識や学部・学科の知識を高める取り組みも行っている。ハイレベル模試への挑戦も促している。高校では低学年の家庭学習の定着に課題がある。講師を招いた進路講演会を文理選択やコース選択などに合わせて複数回実施したり、模試の事前・事後指導など、進路意識と学力の向上を図っている。教員対象にも進路研修会を実施し生徒の現状把握に努めている。しかしながら、受験環境や入試改革がかなり早く変化しているため、対応をしていく必要がある。</p> <p>参考となる高校各学年模擬試験データ 第2回全統高1・高2模擬試験(8月) 第2回全統マーク模試</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>高校1年</td> <td>2年</td> <td>3年文</td> <td>理</td> </tr> <tr> <td>SS70以上</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>SS60以上</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>8</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>SS50以上</td> <td>65</td> <td>59</td> <td>38</td> <td>50</td> </tr> </table> | | 高校1年 | 2年 | 3年文 | 理 | SS70以上 | 0 | 0 | 1 | 1 | SS60以上 | 7 | 14 | 8 | 10 | SS50以上 | 65 | 59 | 38 | 50 | | | | | |
| | 高校1年 | 2年 | 3年文 | 理 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| SS70以上 | 0 | 0 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| SS60以上 | 7 | 14 | 8 | 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| SS50以上 | 65 | 59 | 38 | 50 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑧ 旧帝大等の難関大10名、広島大20名、早慶上理30名、関関同立100名以上が合格する。 | | C | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 4 時代の変化に対応した、教育内容の開発と校内体制の構築を図る。 | | | | |
|--|---|-------------------------|---|------|
| 達成目標 | 本年度行動計画 | R4 中間評価（コメント・参考になる数値など） | | 担当部等 |
| ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。 | 生徒の学びを深化させるためのICT機器の活用手法について学ぶ研修会を実施する。 | B | 市立中学校の校長を7名来校いただきICT機器の活用の授業の見学していただき、今後の活用方法などのご意見をいただいた。 | 教務部 |
| | 授業観察、アンケートなど授業改善を組織的・計画的に行う。 | C | 広く先生方に呼びかけて授業観察を行うことができなかった。 | |
| | ICT機器によるさまざまなデータの蓄積を促し、学習面・生活面からの生徒支援を推進する。 | C | 体系的に取り組めていないが、ICT機器を活用し、学習面での支援は進んでいる。 | |
| | 広く校外にも参加を呼びかけ、公開研究授業を行う。 | C | 新型コロナウイルス対応のため実施していません。 | |
| ② 新学習指導要領に対応した教育課程を実施する。 | 全体の指導を通じて学力の3要素を育成する教育活動を実践する。 | B | 学力の3要素を元にシラバスを作成し、授業の初めに生徒に配布し説明を行った。 | 教務部 |
| | 総合的な探究の時間の学習評価の項目を検討する。 | C | 探究の評価の日本語訳（指導要録への記載用）を作成中です。 | |
| ③ 城北の魅力、機会をとらえて積極的に情報発信する。 学校行事だけでなく日常的な教育活動について、学校の魅力を積極的に校外に発信することにより、受験者数の確保に繋がる情宣活動を推進する。 | ホームページの更新頻度を週5回以上とし、教育活動を校外に発信する制度を構築する。 | B | 行事の様子や最新情報等、各学年・部に依頼し、随時更新している。4月から10月までに延べ120の記事を掲載した。 また城北学園創立60周年記念品としてPTAより贈呈いただいたデジタルサイネージを校内10か所に設置した。現在はデータ送信用の機材、部品が揃っていないため、日常的な運用には至っていない。今後の具体的な活用については各部署で検討中である。現段階では「各行事の紹介（写真）、部活動の表彰、成果発表、図書の新刊本の紹介、国際交流関係、行事予 | 総務部 |

| | | | | |
|------------------------------------|---|---|---|-------|
| | | | 定、学校紹介」等、様々な活用を検討している。生徒の自主的な活動の広報の場として最大限活用を促したい。 | |
| | 定期的に広報誌を発行し、教育活動の広報を校外に積極的に発信する。規模を限定した Saturday Open School を年間7回実施し、コロナ禍に対応した広報活動とする。 | B | <p>広報誌は、イベントの告知がメインの目的であったため、年間2回の発行にとどめた。</p> <p>Saturday open school は、計画通り実行することができている。高校入試に向けては昨年度以上の生徒を集めることができている。</p> <p>(SOS : サタデーオープンスクール)</p> <p>1 中学入試 入試説明会 4回 412名 (8/7, 10/1, 11/3, 11/6) 昨年4回 667名 SOS 5回 589名 (5/14, 6/18, 7/30, 8/20, 9/24) 昨年7回 791名</p> <p>2 高校入試 入試説明会 1回 137名 (10/8) 昨年1回 140名 SOS 5回 240名 (5/7, 6/18, 7/30, 8/20, 9/24) 昨年7回 205名</p> <p>3 今後中高とも 11月12日、11月26日 予定</p> | 入試広報部 |
| ④ 医進コース・自主的探究活動のカリキュラム開発と広報活動を進める。 | 新コースのカリキュラムを定着させ、その魅力を医進生徒の参加も含めて小学校をはじめ幅広く周知活動を行い、入学者増に繋げる。 | C | <p>入試説明会 8月7日 28名 昨年 71名 11月6日 24名 昨年 50名</p> <p>入試説明会参加数が伸び悩んでいる。周知の輪を広げるための検討・模索が必要である。カリキュラムの実施は順調で、生徒の学習意</p> | 医進 |

| | | | | |
|-------------------------|---|---|---|------|
| | | | 欲・学力伸長も進学コースに比べ高い。 | |
| | 探究のカリキュラムを、総合的な学習の時間に位置付け実施する。FLIP など自主的な活動が定着するように校内広報を図る。 | C | プログラミング」(4名)「SDGs」(7名)が年間計画に沿って探究活動を進めている。海洋ゴミの現地調査を行い、文化祭で活動を発信している。 | FLIP |
| ⑤ 新型コロナウイルス感染防止対策を推進する。 | 校内での教育活動での指針を策定し全職員で共有し、実行する。 | B | 日常生活においては消毒液の設置、黙食の励行を基本的に行い、式典、説明会等はできる限り密を避ける形(オンラインでの実施等)で行った。学校医との連携を図り、状況に応じて対応している。 | 総務部 |